



つなぐ、つながる心の絆ふる里交流

岩手県奥州市
水沢南大鐘寿推進委員会

つなぐ、つながる心の絆 ふる里交流

震災復興支援全国大会







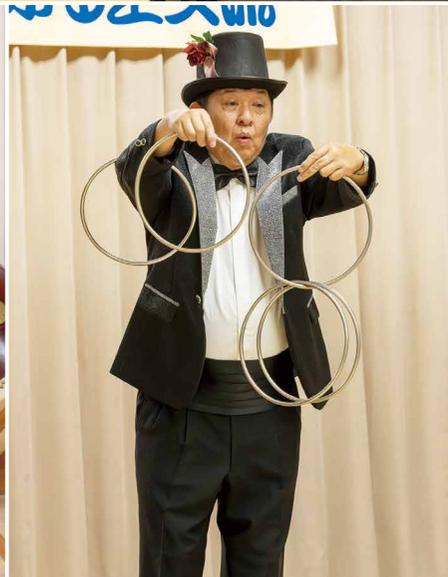
東北一の大河、北上川沿いに広がる胆沢平野に緑色の稲が鮮やかに映え、風になびく姿に癒される。東北本線の水沢駅で列車を降り、城下町の雰囲気を残す街並みを歩くと木造洋館建築が所々に見受けられる。その一つ、昭和16年築の「後藤伯記念公民館」は水沢出身の偉人、後藤新平への旧恩感謝の意を込めた正力松太郎により寄贈された日本初の公民館として知られ市民の誇りとなっている。また水沢は、現代の偉人で今を時めくMLB大谷翔平選手の故郷でもある。地元では時候の挨拶のように大谷選手の活躍ぶりが話題に上がるほど愛される存在だ。

7月中旬、奥州市の水沢南大鐘寿推進委員会(会長・村上徳也さん)の主催により、東日本大震災の被災者を招いた交流会「つなぐ、つながる心の絆ふる里交流」が、奥州市総合福祉センターで開催された。交流会は公益財団法人いきいき岩手支援財団の助成を受けて実施。大船渡市と陸前高田市の沿岸在住者21名、奥州市などへの震災をきっかけにした内陸移住者14名、及び主催団体など計56名が参加した。

東日本大震災から13年。街や道路などハード面の復興は進んでも、故郷を離れた人、被災地に残り生活する人など、暮らしや心の復興は道半ばにある。環境は違っても想いを同じにする被災者を奥州市に迎えて、参加者同士の交流や演芸で心のケアを図りながら、新たなふるさとを創ろうと開催するもの。10時に開会し、会長の村上さんから「震災の記憶が薄れ風化が懸念されている。大切なことは語り継ぐこと。これから交流活動を続けていきたい」と挨拶。

はじめに奥州市江刺にある興性寺の司東和光住職・隆光副住職により、震災慰霊供養追悼法要と法話が行われ、参加者全員で般若心経を唱和し故人を供養する。

時間を改め司東住職に話を伺うと、地域コミュニティを担うお寺であることを大切に活動してきたとのこと。震災以来、10年がかりで仮設住宅で生活する方々の訪問活動を続け、集会



所を巡り慰霊供養や法話を行い、全国からのお見舞い品を贈り、被災者を元気づけようとほら貝法要(高尾山薬王院)や演奏会も行い、現在も被災地の訪問を続けている。活動の様子はお寺が発行する新聞「桔梗通信」に掲載を続け、記事を編集した記録集も発行。司東住職からは「困っているときはお互いさま」の言葉を大切に、みんなが支え合う気持ちがあることを、被災者の方にお伝えしていると伺う。

交流会では続けて、奥州市防災士会「絆」会長の千葉稔さんから「命をつなぐ/自分の命と自分の大切な人の命を守る」をテーマに講話。東京消防庁に在職し、震災時には気仙沼市で救助活動を担った経験談など映像を交えながら話した。防災の一番の目的として「自分の命は自分で守ること」の大切さを参加者に呼びかけた。講演のあと千葉さんからは「震災から13年経った現在、経験から教訓を捉えていくことも必要だ」というと講演に込めた想いをお聞きする。

昼食時には「ふる里懇談交流」として参加者同士が7グループに分かれて懇談。あるグループでは初めて出会った人同士が、実は同じ集落だったという偶然もあった。陸前高田市から参加の村上ミキ子さんは「以前は、夢ネット大船渡の復興支援活動に参加し、仮設住宅向けの新聞発行に携わっていた。当時は目の先の仕事に取り組むことで辛さを忘れられた。今日の交流会は楽しさと出会いがあった良かった」と語る。

昼食後には、震災後からボランティア活動として、町内会や福祉施設などの訪問出演を続ける「腹減太一座」によるお楽しみ演芸が参加者を楽しませ、15時にいったん閉会となった。

水沢南大鐘寿推進委員会は、今回の震災復興支援事業推進に向けて水沢南大鐘地区の高齢者組織「水沢南大鐘寿会」により設置された。水沢南大鐘寿会は、芸達者な住民有志により「演芸みなみ寿座」を平成26年に結成し、震災沿岸部の仮設住宅や福祉施設などを訪問し、激励公演を実施してきた。その後仮



設住宅の閉鎖が進むなどの変化を踏まえて、被災者を奥州市に迎えた交流会を平成30年、令和元年と行い、今回は3回目の開催となる。

会長の村上さんは「人がつながることが大切。この交流会も多くの人の協力で実現できた」と話す。中でも、沿岸居住者の参加者の取りまとめを行った、大船渡で支援活動を続ける「夢ネット大船渡」代表の岩城恭治さんの存在があつてこそ開催できたことを挙げる。また、震災から13年が経ち、被災者を激励してきた「演芸みなみ寿座」高橋安三郎座長もコロナ禍により休止を余儀なくされているが、若い世代やゲストの協力参加を計りながら支援の灯を消すことなく灯し続けていきたいと語る。

総合司会を務める千葉信さん(MC)プランニング代表は、3回目の交流会となる今回は奥州市防災士会長に講演を依頼し防災の新たな趣旨を加えたと話す。

交流会はその後、北上川の対岸の街、江刺にある老舗の菓子舗回進堂を訪問見学した。同社の菊地社長からは、大谷翔平選手の大好物という同社のリンゴゼリーを持ってアメリカを訪れて差し入れた話などが紹介され「笑顔をつくるお菓子屋として日々頑張っている」と、アツアツの羊羹が振る舞われ、身も心も温まる時間となった。

この日の帰路「ふるりの絆エール交換」として、沿岸在住者を代表して大船渡の岩城さんから「今日の交流会や回進堂の社長さんのおかげで元気になりました」と謝辞があり、大船渡に戻るバスを同会メンバーが見送り手を振る。

この日の交流会でかけられた言葉から、年月を経ても応援してくれる人がいること、傍にいて話を聞いてくれる人がいることが改めて心に刻まれる。心の交流はこれからも続いていくと思う。

【連絡先】 水沢南大鐘寿会会長 村上徳也さん
TEL : 090-9534-9460
メール : tokuya@catv-mic.ne.jp